



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 池田英雅

第15号

令和元年十一月一日発行

真言宗豊山派 発行責任者 池田 英雅
佐渡宗務支所 編集委員長 加藤 龍久

発行所
新潟県佐渡市新穂大野一二四・一
清水寺中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

Seeing is believing

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 池田 英雅



総本山長谷寺国宝本堂

今回ははじめに支所からのお知らせを、下段、加藤布教長の記事にあるように、来年六月に令和、初めての「団体参拝」を計画しています。「百聞は一見に如かず」長谷寺御本尊十一面観世音菩薩、高野山奥の院他、皆様も魅力あふれる寺院・仏閣を訪ねてみませんか。「百聞は…」最近、この格言に引かかることがある。

隣の地区に「令和のクレオパトラ」がいると聞けば、見てみたいと思うのが男心だろう。実際に見て「噂どりの美女で優しさを感じるぞ」「いや、美しいのは外見だけで眼に冷たさを感じる？」等、外見以外の所見も出てくる。百人いれば様々な観想が出てくるに違いないし、実際に本堂のことを知るには自分の眼で確かめるしかない。実際に体感すること、させること、これこそ布教にとって究極の手段ではないかと自分は考えている。この紙面では詳しく説明できない自分に、もどかしさを感じるが…

佐渡は海もあり、山もあり、広大な農地もある。自然に恵まれ、昔ながらの風習・慣習も依然、残っている。長谷寺、高野山は決して利便性の高い立地条件でない自然豊かな場所にあるが、その土地を訪れ佐渡の寺院では絶対に味わえない慈愛あふれる空間の中に、皆様を抱かせてあげたいです。皆様の心のネガに焼きつくような光景・体験が待っています。よろしくお願ひいたします。

なお、約一名、ハイ・ヴィジュアル系坊主もお供します。女性の方、そちらも楽しみにしてください。



高野山壇上伽藍根本大塔

令和初『総本山長谷寺と高野山参拝の旅』ご案内

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 布教長 加藤 龍久

聖地巡礼の旅には是非一緒にしましょう。初めてお参りする方、数回お参りしている方もいらつしやることでしよう。

何百回、何千回お参りしても総本山長谷寺の観音さまと高野山奥の院は人々を引きつけてやみません。

私たちの菩提寺（お寺）は真言宗豊山派に所属しています。そして、真言宗豊山派の総本山は奈良県桜井市にある長谷寺なのです。

長谷寺のご本尊さまは十一面観世音菩薩さまです。（そのお姿は10mを超える大きさ。十一のお顔は全ての人々を漏らすことなく見守ってくれています。）そのお姿に接すると、全てを包み込んでくれる大きな安心感を覚えます。

三百九十九段の石段を登った所に建つ本堂の板敷きの舞台に座って、僧侶が唱える読経を是非体験いただきたいと思っています。

高野山は真言密教の根本道場、仏教の聖地として千二百年の歴史を刻んできました。

また、奥の院は真言宗の開祖弘法大師空海上人のご入定の地であります。お大師さまは今もなお、高野山の奥の院におられ、私たちを守ってくださいているのです。「同行二人」という言葉は、いつもお大師さまと一緒にこの人生を歩んでいるという身近で心強い教えです。

総本山長谷寺の観音さまに手を合わせ、高野山奥の院に今もおわすお大師さまに手を合わせ巡礼の旅は、参加した方の残りの人生をいっそう豊かにし、信仰心に支えられた実り多い人生にしてくれることでしよう。

◎令和二年六月二十一日（日）～二十三日（火） 旅行代95,000円
第一次募集締切…令和二年一月末日 申込金…一万円（残金は後日集金）
募集人数…九〇名 ※参加希望の方は各菩提寺にお申込み下さい。

真言宗豊山派佐渡仏教婦人会活動報告く裂き織り体験

支所下二番 慶宮寺寺庭婦人 仏教婦人会会長 金子 ルリ子



今年度の仏教婦人会の活動内容として総会が開催され、講習会や会員親睦をかねて御詠歌練習、整体体操、裂き織り体験等を行いました。整体体操では、もう少し長くやりたいという声が聞かれました。

裂き織り体験は、お子様やお孫様も一緒に参加していただくように依頼したところ、十五名参加していただきました。新穂歴史民俗資料館の指導者の方々も、裂き織り機械、一基ごとに一名ついていただき、分かりやすく丁寧に指導していただきました。

織り機のペダルをリズムカルに動かし、張つてある糸に好みの裂いてある布を通して、二時間あまり無言で集中し良い作品が出来上がり、参加された皆様も満足されていました。体験を通して各寺院でお檀家様とのつどいに活かされれば良いと思います。



今後の予定として東光院様(新穂長畝)の本堂にて「ヨガピラ体操体験」を予定しています。年々会員数の減少等、様々な問題もありますが、会員皆様の力を合わせて継続発展に励みたいと思います。

全国檀信徒総代協議会に参加して

支所下二十三番 定福寺檀信徒総代 宇留間 壯

令和元年五月三十日・三十一日の二日間、東京都文京区にあります真言宗豊山派宗務所において第七十一次全国檀信徒総代研修会・協議会に参加してきました。

一日目の研修会では真言宗豊山派、星野英紀総長による「長谷寺観音さま現代に再び来臨」と題してのご講話を受けました。

冒頭今年三月にJ.R東海のCMに総本山長谷寺が取り上げられ放映されたことにより、四月以降の参拝客が例年より十%余り増加しており、関東地区でも長谷寺の魅力が関心を呼ぶようになってきたという報告がありました。

昨年に続き二度目の参加となりましたが、改めて宗派、並びに本山の布教活動に努められている真摯な姿勢や各地域の活動に対しての現状と課題を知ることができ大変、有意義な研修でありました。

仏青会長に就任して

支所下四十四番 長松寺住職 中浜 浄太

今年四月から真言宗豊山派佐渡仏教青年会の会長を務めさせていただいていますが現在、仏教青年会の会員は支所下の五十五歳以下の若手僧侶を中心に、二十一名ほどで構成されています。

近年のお寺を取り巻く環境の厳しさから、住職専業で生活できる者はほとんどなく、私を含め何らかの別の仕事をしながら、その合間をぬって活動に参加している会員がほとんどです。

中浜 浄太 会長

そのような中でも仏教青年会の活動を通じて会員間の交流を深め、互いに研鑽を積む機会として、青少年研修会等、積極的な参加を呼びかけています。

今後とも仏教青年会の活動に皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げます。



子供たちの予期しない反応にびっくり！

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 布教長 加藤 龍久

青少年研修会で、私は『暗闇法話』を担当しました。奥座敷の照明器具をオフにして、ろうそくの灯りだけで紙芝居を一つ読みました。

読んだ紙芝居は『小僧さんの地獄めぐり』です。この紙芝居は、真言宗豊山派で出している冊子『光明』の中で、仏教童話を長年に渡って担当し、素晴らしい絵本・紙芝居・絵画を多数世に出している諸橋精光師（長岡市千蔵院住職）の作品です。

紙芝居のあらすじは、絵が上手な小僧さんが急病で亡くなり、お葬式のさなかに生き返ります。驚く和尚さんに小僧さんは、地獄の恐ろしさを人々に伝えるため、閻魔大王の依頼で地獄を巡ってきたと言います。そして、恐ろしくむごたらしい地獄のありさまと責め苦の数々を語り始めるのです。真剣な眼差しでじいっと絵を見つめる子供たちを意識しながら、「人を殺した人間は、火あぶり地獄に落ちます。犯した罪が消えるまで繰り返し繰り返して焼かれるのです。うそをついた人間は、舌を引き抜かれます。人に悪口をいった人間は、針と糸でその口を縫われて、もう泣くこともできなくなるのです。」と紙芝居をめくります。

紙芝居が終わった後、子供たちが本堂の仏さまの前で手を合わせて「ごめんなさい。」と反省している姿にびっくりしました。



紙芝居『小僧さんの地獄めぐり』

締めくくりのご挨拶で池田支所長が「みなさん、うそをついたり、悪口を言ったりしないで、仲良く生活してくださいね。」と呼びかけると「はい。」と大きな声で心のこもった返事をしてくれたことにまたびっくりしました。

人々のモラルが低下した現代社会の中で、さあ、おじいさん・おばあさんの出番ですよ。純真無垢な子供たちに「悪いことをすると地獄へ落ちて怖い責め苦を受けることになるんだよ。悪いことをしてはいけないよ。」と何度も言うって聞かせませんか！

第四十三回青少年研修会

令和元年七月二十七日(土)に畑野、長谷寺道場において第四十三回の青少年研修会が開催されました。歴史ある長谷寺をお借りして、普段は入れない経蔵などにも、ご住職に案内していただきました。保管されている三千巻の經典の周りを時計廻りに一周すると、全てのお経を唱えた功德がある、という話に子供たちも興味をしましてました。

また、「ボケ防止地蔵」の頭をなで、おじいちゃん、おばあちゃんがいづまでも元気でいて欲しいと願う子供たちもいました。

上段、加藤布教長の報告にもあるとおり、地獄のお話は研修生たちに他人をいたわる心の大切さが伝わったのではないのでしょうか。

「絵ろうそく作り」「そうめん流し」も楽しかったみたいですね。来年はどこのお寺さんが会場になるのでしょうか？お泊りはあるのかな？

仏青会長はじめ会員の皆様、本当にありがとうございました。五十回めざして頑張れ！



令和元年7月27日(土)
於:佐渡市長谷 長谷寺道場



長谷寺『暗闇法話』会場



座禅・・・真言宗では「阿字観」という観想法(座禅)を修法いたします。子供たちも「心が落ち着いた」「美しい花を思い浮かべることができた」等の感想がありました。写真の中濱照文先生。宇宙と交信中！？

寺院探訪

佐渡宗務支所下四十一番 札玉山 文殊院

れいぎょくざん もんじゅいん

佐渡市赤玉

住職 山本 憲慈

両津港から県道一周線の海岸を南下し三十五km、または三・七km程の下久知から県道赤玉両津港線(通称四十八ヶ所線)に折れ、山道を進み峠を越えると急に視界が開け眼下に海と、行き交う船、その先には越後の山々が一望できます。峠を下り棚田を通り抜け、佐渡一周線と合流した所が日本三大銘石にも数えられる「赤玉石」の産地赤玉集落で、その中ほどに文殊院があります。

この途中にある神秘的な「杉池」を源とする川沿いの緩斜面から「赤玉石」が産出されてきました。この「杉池」周辺の水で身を清めた修験者は加持祈禱を行い、水・農業・稲作の神として「杉池」及びその一帯は人々の信仰を集めてきました。

寺の創立は永禄元年(一五五八)空遍律師と伝えられ、中興は快仙法師で田畑、山林を求め基礎づくりをしました。当時の寺は不動尊を祀る修験道山伏の堂として集落の上手「寺屋敷」にありましたが、宝暦二年(一七五二)に堂宇を現在地に移し、明和八年(一七七二)に真言宗の寺として成立しました。

安永元年(一七七二)には火災に罹り、天明元年(一七八一)に堂宇が再建されました。以後、幾度となく火災や水害などの被害に遭いましたが、旧観に復されてきました。昭和に至って本堂の大修理と屋根は瓦葺きとし、庫裏の大改修及び一部新築されるとともに「心経殿」が建立されました。中には「大般若波羅蜜多經」六百巻やお遍路さんたちの写経も収蔵されております。

「杉池」一帯及び水神を祀る祠は寺の「奥の院」として親しまれ、古来より六月十五日の「杉池」例祭当日に住職は本堂で大般若經転読を行い五穀豊穡、村内安全を祈願してきました。近年、日にちと内容を変更して行われてきた例祭では神事の祭主も務めました。集落内の高齢化が進み人手不足などにより令和元年以降の例祭は行わないことになりました。



文殊院本堂

当寺本尊は大日如来様(胎藏界)、境内には弘法大師を中心として四国霊場八十八ヶ所石造御本尊が安置され、また古来より「魔除けの石」として佐渡奉行から江戸城に献上されるなど珍重された「赤玉石」も置かれ、参拝者の目を楽しませています。



四国霊場石造御本尊

佐渡宗務支所下七十三番 泊藤山 観音寺

はくとうざん かのんじ

佐渡市相川鹿伏

住職 平田 恵順



観音寺本堂

当寺は旧相川市街の南の外れ、日本海から吹き渡る潮風をまともに浴び、冬は荒波が激しく打ち寄せる立地条件の悪い場所に位置し、おそらく島内でも暴風雪の激しさは随一だと思われます。この地区は旧相川地区では、最も豊かな耕地に恵まれている地域で、ほとんどの住人が農業を営んでいます。また、鹿伏という地名は、この地に最初に住んだ人間がシカを連れていて、その亡骸を埋葬した場所が春日崎で、そこから地名の由来となっています。

開基は資料により建立説が異なりますが、慶長十三年(一六〇八)といわれ、本尊は聖観世音菩薩です。聖観音は観自在菩薩ともいい、すべての物事を自在に観ることが出来るという仏様です。

皇位継承で天皇(靈元)に逆らい、天和元年(一六八二)佐渡へ配流となった小倉大納言実起、長男公蓮、次男秀伴の三人が商人の紹介で、この地に移り、住んだ寺と知られています。山号の泊藤山は小倉家の「八つ藤」の納所が由来とされています。

本尊である銅造観世音菩薩立像は、実起が京都から持参し当山へ寄進されたといわれ、七世紀後半の奈良白鳳時代の金銅仏の特色を持ち一鑄造りの美しい小像で、実起はこの観世音菩薩立像を自らの守り本尊としていました。昭和五十九年(一九八四)に、新潟県文化財に指定されました。秘仏として保管し開帳はしていません。

小倉父子は流人とはいえ生活は自由で、地元の人や文人、豪商たちを呼び歌会や詩、和歌を詠じていたと伝えられています。しかしながら実起はわずか二年三月の佐渡暮らしで、貞享元年(一六八四)享年六十三歳、公蓮は同年九月二十二日、享年三十八歳の若さで逝去され、当寺で葬儀が営まれました。次男、秀伴は元禄八年(一六九五)赦免され帰京して小倉家を再興しました。

寺宝としては実起の遺品とされる扇子、

はんゆう

振鈴、歌軸、流人絵師狩野胖幽の大納言実起の肖像画など数点ございます。余談ですが「佐渡おけさ」を全国的に有名にした村田文三氏の墓所が存在します。



狩野胖幽作実起肖像画(右)
実起直筆詩歌(左)